Section 3

# 大地に屹立する立体都市

染谷正弘＝写真・文

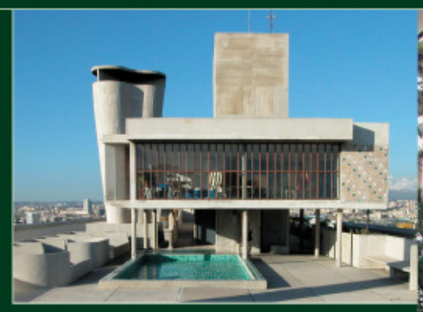
近代建築の巨匠、ル・コルビュジエの近代建築や都市計画の本質を、染谷正弘さんがひも解きます。連載第3回目は、都市機能が詰まった集合住宅、「ユニテ・ダビタシオン」をクローズアップします。

### 幼稚園

子ども達には青空の下で安心して思い切り遊べるオープンスペースは不可欠。屋上利用はとても有効で小さなプールもある

### 運動場

ジョギングトラックもある屋上庭園は第二の大地、住宅は住人の健康を育む空間装置でなければならないとコルビュジエは言う



## 建築に備わる多彩な共用施設群

すぐれた集合住宅には豊かな共用空間があり、豊かなコミュニティを育む、その原型がユニテ・ダビタシオンだ

### 商業施設

多彩な共用施設群が集約する建築の中間階は、住人の日常生活をサポートする小さな商店街であり憩いの場でもある

### 住居

間口約3.6m、奥行き約24mの住戸は鰻の寝床のように細長いが、高さ約5.5mの吹き抜けのある居室は開放感に満ちている

### マルセイユに聳える「垂直の田園都市」

くさび状の36本の巨大な柱群に支えられた全長約156m、高さ約56m、17階建てのユニテ・ダビタシオンは、近代高層集合住宅の金字塔。マルセイユの夏の陽射しは強い。影りの深いグリッド状のリズミカルな外観は、ブリーズソレイユ（日除け）がそのまま建築になったかのよう。打放しコンクリートと赤や青のアクセントカラーが建築に躍動感を与えている

### 快適空間を生む建築的仕掛け

屋上庭園、ピロティ、ブリーズソレイユ、吹き抜け、モデュロールなどの仕掛けは、豊かな建築デザインの源泉でもある

［モデュロール］
黄金比と人体寸法を基本につくられたコルビュジエのオリジナル寸法体系。この建築に全面的に採用されている

［ピロティ］
1階部分は巨大な柱群が建ち並ぶオープンスペース、緑豊かな公園に開放されて人々は自由に行き来できる

### ル・コルビュジエ

1887年スイス生まれ。1917年以降パリに定住し、建築や都市計画、家具デザインなどに従事。「近代建築の巨匠」として知られる。彼の都市理論を綴った著書『輝く都市』は、翻訳版が鹿島出版会より出版されている。

大地は緑に覆われてどこまでも広く、太陽に輝き美しい。私たちは、その大地の上に暮らしている。そして、建築は大地の上に建つ。その眼差しのもとに、人が暮らす住まいにこそ建築、都市の原点があると一貫して主張し続けた建築家が、ル・コルビュジエである。

「この機械文明に再び自然を呼び戻すこと…つまり、太陽、空間、緑など宇宙の本質を思い出すのだ。どれも人間の本質には欠かせない」と彼は言う。そして、可塑性豊かな鉄筋コンクリートと巨大なガラスを駆使し、太陽と空間と緑をふんだんに取り入れたサヴォワ邸（1931年）をパリ郊外に実現する。それは、近代理性を結晶化した裸形の近代建築であり、地域性や歴史性を払拭した新しい建築様式「インターナショナルスタイル」の象徴となっていく。

それからおよそ20年の時を経て、ル・コルビュジエの建築は大きく変貌する。この間、第二次世界大戦が勃発し、都市は破壊され、ヨーロッパ諸国は深刻な住宅難にみまわれる。フランスのマルセイユでも、戦後復興対策として集合住宅が計画され、そして実現したのが、ル・コルビュジエの高層大規模集合住宅「ユニテ・ダビタシオン（1945～52）」だ。直訳すれば、「集住体」というほどの意味だろう。それは、コンクリートむき出しの雄々しい巨大建築であり、そこにインターナショナルスタイルの面影はもうない。

この集住体には、337世帯の家族の住宅群のほかに、郵便局もあればレストランもホテルもあり、屋上には幼稚園も広大な運動場もある。ガラスの大開口部と一体となった大吹き抜けのある2層メゾネットの各住戸は、マルセイユの光や風や風景に満ち、住まいの快適性を追求した様々な仕掛けがデザイン性豊かに散りばめられている。それは、まさにル・コルビュジエの言う「住むための機械」であり、建築というよりもはや立体都市と言った方がいい。

この立体都市を中空に持ち上げ支えているのは、1階ピロティに林立する打ち放しコンクリートの巨大な柱群だ。それは、パリ郊外の大地にそっと置かれ今にも舞い上がりそうなサヴォワ邸の白い軽やかな柱とは全く違う。まるでマルセイユの大地に深く突き刺さっているかのようである。

ル・コルビュジエは、人が住まう建築とは何かを、悲惨な第二次世界大戦を体験した近代社会に改めて問い直したかったのではないだろうか。その時、柱が深く突き刺さる大地にこそ建築の原点があると彼は確信したに違いない。そして、近代建築に大地の魂が吹き込まれ、ユニテ・ダビタシオンはその姿を現す。それは、地中海の光あふれるマルセイユの大地に屹立する『輝く都市』でもあった。

そめや・まさひろ／建築家・文化女子大学講師・DSA住環境研究室代表。「コミュニティデザイン」という計画概念の基に大規模集合住宅のデザインプロデュースを多く手掛ける。作品にシティア（千葉県我孫子市）、リボンシティ・レジデンス（埼玉県川口市）、大宮ファーストプレイスタワー（埼玉県さいたま市）等